

友へ

岩名 愛

まだ肌に冷たい空気が残る冬の朝

あなたは旅立った

あなたは教えてくれた

金色に輝く朝日に希望があることを

あなたは教えてくれた

青く広がる空に明日が見えることを

あなたは教えてくれた

通り過ぎる風に自由があることを

あなたは教えてくれた

大地に根を張る木々に強さがあることを

奇跡が命を繋ぎ

命が奇跡を起こす

誰のものでもない心と心

愛が感謝となり絆となる

あなたの心には虹色の羽があり

自由にどこまでも旅をしていましたね

沢山の言葉を綴りながら

あるがままの心で
あるがままの姿で

あなたの笑顔は輝くダイヤモンド
あなたの涙は輝く真珠

今もずっと頷いてくれている
いつもの輝きで

友よ

あなたの存在は大きな地球のように
私達を大きな愛で包んでくれた

幸せに 穏やかに

いつものように あるがままに
希望を紡ぐ永遠の羅針盤

ありがとう 行ってらっしゃい
又逢う日まで

さくら

ひらひら ゆらゆら風に舞い
さくらの花びらが飛んでいき
田植えを待つ田んぼのキャンバスに
粉雪みたいに舞い落ちて
水玉模様のお絵かきをした

ふわふわ ぐるぐる飛んできた
蝶々が楽しくダンスを踊り
新芽を付けた木々たちが
拍手しているみたいに
葉をこすってざわめきだした

さくらよ さくら
花びらいっぱいまき散らし
さくらよ さくら
青いお空にグングン育て

ただそこで咲く桜

岩名 愛

混雑するメイン道路を避け横道に入る

そこは静かな住宅街の中を抜ける道

突然私の視界の中に飛び込んで来た

見事なまでの枝垂れ桜

その艶やかで優美な姿に心奪われ

車を止め誘われるままに歩み寄る

すると春の突風が

満開の桜を躍らせ

花びらがゆらゆらと円を描いた

その花びらの落ちて行く先は嘗てのせせらぎ

今は朽ち果てたゴミと共に面影だけを残す

その苔むした大きな幹に切なさが漂う


清らかな水がせせらぎの音を奏で

時折通る野兎やイタチが水を飲んでいた

そんな面影はもうそこにはない

桜はそこでどんな景色を見下ろしてきただろう

そんな無常の光景に思いを馳せる



どんなに時が流れ時代は変わろうと
今年も今年の花をそこで咲かせている
桜はただ桜として